

HOT! NEWS

1

2019年度 国際理解講演会 講師 丹羽宇一郎先生



名 古屋国際では国際教育の一環として、世界を舞台に活動され豊富な経験や体験を有する方を講師としてお招きして講演いただく取り組みを毎年行っています。このたび、2019年6月22日(土)に開催予定の国際理解講演会の講師として、元中華人民共和国駐箚特命全権大使の丹羽宇一郎氏をお迎えすることが決定いたしましたのでお知らせいたします。

丹羽宇一郎氏は愛知県名古屋市でお生まれになり、名古屋大学法学部を卒業後、伊藤忠商事株式会社に入社されました。優れた経営手腕が評価され、伊藤忠商事株式会社長、会長を歴任。ビジネスで培った中国政府とのパイプを持つ財界人として、民間出身者として初めての中華人民共和国駐箚特命全権大使を就任されました。丹羽氏の外交姿勢は現在の日中関係に極めて重要な礎を築かれました。現在、日本・トルコ協会会長、日中友好協会会長、早稲田大学特命教授、グローバルビジネス学会会長でいらっしゃいます。

現在の米中貿易摩擦について最新情報を知る機会であり、経験に裏付けられた国際社会のまさに「現在」を知るまたとない学習の場となりますので、ぜひご参加ください。■

HOT! NEWS

2

2018年度 国際教育プロジェクト 合同報告会開催のお知らせ

グ ローバル化が進行する21世紀の国際社会に対応できるグローバル・リーダーを育成するための新しい教育が、これからの中等教育に求められています。名古屋国際中学校・高等学校のグローバルアクションを生徒が主体となり紹介する、国際教育の合同報告会を開催いたします。■

[2つのグローバルアクション]

- 1 文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト
- 2 文部科学省委託事業SDGsの深化による地域のSDGs推進事業
サステナブルスクール

【日 程】2019年2月9日(土)

【時 間】13:00~16:00(12:30開場)

【場 所】名古屋国際中学校・高等学校

愛知県名古屋市昭和区広路本町1-16

【定 員】50名(定員を満たし次第申込を締め切ります)

【対 象】本校国際教育の外部連携先、および保護者各位

【申 込】随時受付中

【テマ】Act! SDGs ~学校が繋ぐ、地域とSDGsの輪~

【スケジュール】

12:30~ 受付(開場)

13:00~ 開会

13:10~ サステナブルスクール学習発表／SGHアソシエイト活動報告

14:00~ 基調講演／山本 佳史(やまもと よしみ)氏

14:30~ SDGs体験授業

15:50~ 講評

16:00~ 閉会

HOT! NEWS

3

第9回ESD国際交流プログラム

公 益社団法人日本ユネスコ協会連盟(UNESCO憲章の理念に基づき活動しているNGO)は、ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育(ESD)の普及を目的に、ユネスコスクールの高校生を対象に「ESD国際交流プログラム」の実施を予定しています。

全国各地のユネスコスクールから過去最多の283名の応募の中、選出8名という狹き門に名古屋国際からは鬼頭英都(5-2)君が選考されました。今年度の「ESD国際交流プログラム」は、2019年3月23日(土)~29日(金)ドイツ・ハイデルベルクのユネスコスクールとの交流や、フランス・パリのUNESCO本部訪問等を予定しています。

THE FRONTIER TIMES Report 3

第1回サステナブルミーティングが 本校で開催されました

2 019年1月14日、第1回サステナブルミーティングが名古屋国際中学校・高等学校で開かれました。本校がホスト校となり、他のサステナブルスクールの先生や公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(以下ACCU)、大学関係者が参加されました。文部科学省委託事業である「ESDの深化による地域のSDGs推進事業(サステナブルスクール)」は2018年度で終了します。そこで、ACCUとの協働による新しいサステナブルスクールの在り方の構築と今後の運営方針を決めるためにサステナブルミーティングを開催する運びとなりました。

本校は、学校全体で持続可能な社会の実現のためにさまざまな取り組みをするホールスクールアプローチという手法を取りました。高校課程における学校設定科目SIA特論や総合的な学習の時間、あるいは校外学習や国際理解研修、KOKUSAI Friend CoffeeやSus-Teen!に代表される生徒の自主的組織による活動などいろいろな場面で持続可能な社会に向けた活動を行いました。サステナブルミーティングは、そうした活動が本校のみならず全国のサステナブルスクールで継続的・発展的に取り組めることを最大の目的にしています。今後も地域や日本全国、世界の国々の持続可能性を探りながら、新たなアクションの可能性を信じ、第2回サステナブルミーティング(本校開催)でも引き続き、議論を進めていきます。■



サステナブルスクールとは

近年、学びのスタイルが多様化する中でESD(持続可能な開発のための教育)も着実に日本の教育現場に浸透つつあります。本事業は、よりESDの実践力を高め、教育を通じて持続可能な未来をつくることを目指して、実践的な取組をおこなう意欲のある学校を公募。「サステナブルスクール」として選定し、その取組を発展および深化させるために必要な支援をする事業です。■

名古屋国際中学校・高等学校

発行 NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

所在地 〒466-0841 名古屋市昭和区広路本町1-16

発行年 4回

制作 学校法人栗本学園
名古屋国際中学校・高等学校
学内広報チーム

デザイン cluch on cluch Co.,Ltd.

企画協力 株式会社 イーブレイン

TIMES 設置配布協力先

名古屋国際中学校・高等学校事務局前／名古屋商科大学 地域活性化研究センター／名古屋商科大学 中央情報センター
広報紙「THE FRONTIER TIMES」に関するご意見・ご感想は ft@nihs.ed.jpまでお送りください。本紙に掲載されている記事、画像などを全てのコンテンツの著作権は名古屋国際中学校・高等学校に帰属します。私の使用以外の目的で複写・複製することはできません。

20190203000

THE FRONTIER TIMES

[フロンティア・タイムズ]



▲ESD日本ユース・コンファレンス サイドイベント本校訪問の様子(2018年10月15日)

Action! SDGs

On September 25th, 2015, countries adopted a set of goals under the United Nations supervision to end poverty, protect the planet, and ensure prosperity for all as part of a new sustainable development agenda. These are called the Sustainable Development Goals. Each of these goals consists of targets which should be achieved by each participating country within the next 15 years. Though it is unlikely that all of these goals will be achieved by all countries in the next two decades (take for example the goal of ending poverty in a third world context), at least an intentional commitment has been made by each country, and thus even the poorest countries will be nearer the completion of these goals than when they first started.

Some of these goals fall within the environmental field, encouraging the development of sustainable cities and communities. These goals also emphasize the human stewardship of nature, by holding humanity accountable to life on land, life under water, and the planet's renewable energies.

Some of these goals fall within the economic field, attempting to end poverty, providing a decent work for everyone, encouraging a responsible consumption and production. Sustainable consumption and production is about promoting resource and energy efficiency, sustainable infrastructure, providing access to basic services, and a better quality of life for all.

Finally, the remaining goals fall within the human relations field, encouraging strong institutions (that provide law and order), reducing inequalities among countries, investing in health and education. The latter two are perhaps the areas that have more impact in developing nations. Quality education is the foundation for improving people's lives and having sustainable development. Health, not only in terms of access to medicine, but also access to clean water and sanitation is indispensable for the well-being and development of any nation.

Taken as a whole, these goals go a long way in guiding international development that is both sustainable and harmonious to all the parties involved. ■